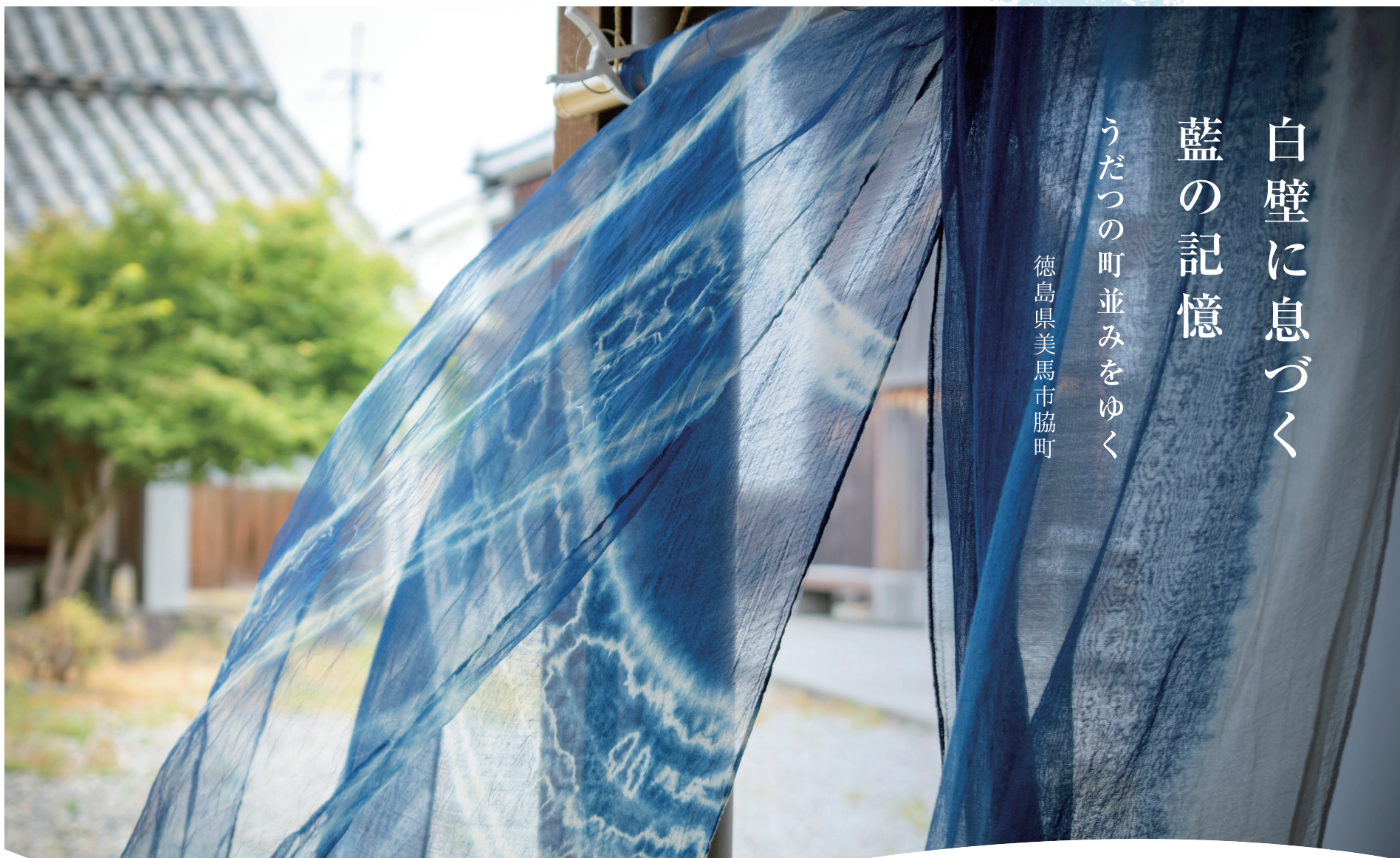




白壁に息づく 藍の記憶

うだつの町並みをゆく

徳島県美馬市脇町



●藍商佐直 吉田家住宅
脇町でも一、二を競った豪商の家。市指定文化財として一般公開されている。



●うだつ(卯建)
隣家との境に作られた防火壁。富を築いた豪商たちが競って立派なものを建てたことから成功の象徴とされる。



●むしこ窓
部屋の明かりとりや風通しのために作られたが、時代とともに装飾的な要素を兼ねるようになった。



●脇町潜水橋
日本三大暴れ川のひとつである吉野川。潜水橋は、兩岸の堤防より低い位置で架けられており、増水時に流木などが引っ掛かって橋に負担がかからないように欄干がない。

徳島県を東西に貫く四国の大河・吉野川を背に、道の駅「藍ランドうだつ」から緩やかな坂を上ると、白壁と本瓦が連なる町並みが静かに姿を現す。約四百三十メートルにわたって続く「うだつの町並み」は、重要伝統的建造物群保存地区に選定され、江戸から明治にかけて栄えた商家の面影を今に伝えている。

この町の発展を支えたのは、徳島を代表する特産品である阿波藍^{あわい}であった。その背景には、「四国三郎」の異名を持つ吉野川の存在がある。

古くから日本有数の暴れ川として知られた吉野川は、たび重なる洪水によって流域の人々を苦しめてきた。一方で、洪水が運ぶ肥沃な土砂は土地を豊かにし、連作を嫌う藍の栽培には理想的な環境をもたらした。また、藍は台風の本格的な襲来を迎える前に収穫を終えられることから、水害の多いこの地域の風土にも適していた。自然の脅威を受け入れ、その特性を生かす知恵こそが、阿波藍繁栄の原点であった。

阿波藍がやがて全国に名を知られるようになった背景には、阿波出身の戦国武将・三好長慶^{みよしながよし}の存在を挙げざるを得ない。長慶は畿内にまで勢力を広げた戦国大名であり、その経済力を支えた一因として、故郷阿波の材木や藍が埋などを通じて畿内に流通したことが知られている。武具や装束に藍染めの濃い青、勝利を願う「勝色^{からいろ}」が好まれたという武家の逸話もあり、阿

波と縁の深い長慶の存在が、こうした藍のイメージを重ねて語り継がれてきたのかもしれない。やがて江戸時代に入ると木綿衣料が庶民に広く普及し、藍の需要は飛躍的に増加する。徳島藩は品質管理を徹底し、「阿波藍」は全国屈指のブランドとして確固たる地位を築いていった。

その集散地として栄えたのが脇町である。吉野川の舟運によって藍は全国へと運ばれ、町には莫大な富が流れ込んだ。商人たちはその財力を競うように商家を建て、屋根の両端には「うだつ」を設けた。

本来、うだつは火事の際に隣家からの延焼を防ぐための防火壁であったが、やがて豪華な装飾を施した意匠へと発展し、多額の建築費を惜しまない経済力の象徴となっていく。「うだつが上がない」という慣用語の由来には諸説あるが、立派なうだつを構えられるかどうか家の格を示したというこの逸話は、その一つとして広く語られている。

実際にこの町を歩き、軒を連ねるうだつを見上げると、その言葉の重みが自然と腑に落ちてくる。町並みの中央に建つ「藍商佐直吉田家住宅」は、その繁栄を象徴する代表的な建物である。寛政四年（二七九二）の創業以来、藍商として脇町有数の豪商に数えられた吉田家は、約六百坪もの広大な敷地に、母屋・質蔵・藍蔵など五棟が中庭を囲むように建ち並び、邸宅全体で二十五の部屋を備える。

開館時間：午前9時～午後5時
休館日：毎週火曜日/年末年始
入館料：大人200円、小中学生100円
※催し物がある場合は別料金
徳島県美馬市脇町大字猪尻字西分140-1
TEL：0883-52-3807



／ 藍染體驗 ／

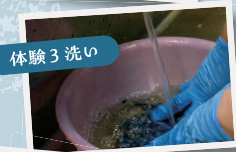


體驗 1

体験1 柄付け



體驗2 染色



体験3 洗い



體驗4 完成

営業時間：午前10時～午後4時
※体験受付は午後3時まで
※体験予約は前日の午後6時まで可能
定員：各時間帯につき1～6名
体験所用時間：1時間程度
休休日：毎週火曜日、年末年始
徳島県美馬市脇町大字脇町字突抜町45-1
TEL:0883-52-5168



藍染商品販売コーナー

A photograph of a traditional Japanese building with a tiled roof and white walls, identified as the 'Miyazaki' building. The building has a long, low profile with a series of connected sections. The roof is made of dark grey tiles. The walls are white with dark wood trim around the windows and doors. In the foreground, there is a paved area with some orange and red fabric or mats laid out. The sky is blue with some clouds.

A photograph of a traditional Japanese street scene, likely in Kyoto. The image shows a row of wooden buildings with tiled roofs and a paved road. The buildings have dark wood siding and white walls. The roofs are made of dark tiles. The street is paved with light-colored stones or bricks. The sky is blue with some clouds. The overall atmosphere is peaceful and historic.

●舟着場公園
かつては町並みの近くまで吉野川が流れており、この舟着場から藍製品が出荷されていた。今も石垣やスロープが残る。

●うだつの町並み
約430mの通りに江戸時代中期から昭和初期にかけて建てられた商家が建ち並ぶ。

その色には自然と共生してきた人々の知恵が凝縮されている。伝統とは過去を保存するだけではなく、受け継ぎながら現代へつないでいく営みなのだと実感した。

うだつの町並みは、藍によってもたらされた繁栄を今に伝える「形ある遺産」である。

一方、天然灰汁発酵建てによる藍染は、その繁栄を支えた技術と精神を受け継ぐ「生きた遺産」。建築と伝統技法、その双方が現代まで大切に守られているからこそ、脇町は単なる歴史的景観ではなく、阿波藍の文化そのものを体感できる希有な町となっている。

吉野川の洪水という自然の脅威を、豊かな恵みへと転換した先人たちの知恵。そして、その恵みを受け継ぎながら、藍を育て、町を築き、文化として守り続けてきた人々の歩み。脇町の白壁の町並みは、そうした幾世代にもわたる営みを静かに、深く澄んだ阿波藍の青は、この地が育んできた歴史と誇りを、これからも変わることなく後世へ伝えていくだろう。